

令和6年度 多摩市立多摩第二小学校 学校評価書

学校教育目標	
○考える子 ◎思いやりのある子 ○元気な子	
目指す学校像(学校経営ビジョン)	
○創意のある学校…子供が様々な体験を通して、確実に成長できる学校 ○信頼される学校…保護者・地域から親しみをもたれ、安心・安全な学校 ○活力のある学校…子供と教職員が明るく、温かな人間関係を築ける学校	
目指す子供像	目指す教師像
・確かな学力を身に付け、学習意欲が高い児童 ・互いの人権及び個人の選択や志向を尊重できる児童 ・社会性や自主性があり、自立心が高い児童 ・健康な心と体があることに感謝し、自身の健康の維持増進に向けて努力する児童	・成長過程で揺れ動く児童の心情に寄り添える教師 ・日々の実践をもとに指導を改善できる教師 ・学校の運営者として責任をもって働く教師 ・家庭や地域と効果的に連携し教育活動を行う教師 ・コミュニケーションを大切に、資質を高め合う教師

Ⅰ 自己評価結果と学校関係者評価の状況

(1) 確かな学力の育成

重点目標	○基礎・基本の確実な定着と問題解決能力の育成 ○持続可能な社会の創り手としての意識の醸成			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
児童調査で「授業がよく分かる」の項目の肯定的評価を90%以上にする。	3	92.4%(R5:89.6%)と昨年度よりも高まり、目標を達成した。	B	・90%を超えているため、妥当な評価である。 ・創意工夫は見受けられるが、もう少し緻密な分析が必要ではないか。
実体験を重視した問題解決的な活動を年3回以上実施する。	3	どの学年も様々な交流、体験、校外学習を実施することができた。	B	・ESD 実践動画100選に2年連続認定されたことは評価に値する。SDGsに力を入れていることが感じられる。
SDGsを踏まえた ESD の視点に立ち、探究的な学習のための体験的な活動を年4回以上実施する。	3	学年、学級で主体的な取組が見られた。日々の学習を ESD の視点で価値付けた。実践動画100選2年連続受賞。	B	
評価のまとめ	○引き続き、教員が最も授業に注力できるよう環境を整える。指導力の向上に向けた研修を行ったり、教員間で指導方法を交流したりすることを行う。 ○各教員の日々の実践が SDGsとどう関連しているのかを意識させていく。			

【評語について】

自己評価			学校関係者評価	
評語	達成状況	成果指標	評語	自己評価の適切さ
4	申し分なく達成した	90%以上～100%	A	適切である
3	おおむね達成した	70%以上～90%未満	B	おおむね適切である
2	やや下回った	40%以上～70%未満	C	適切でない
1	大きく下回った	40%未満	D	評価は困難である

(2) 豊かな心の育成

重点目標	○あいさつ等生活習慣の徹底と人権意識の向上、思いやりの心の育成 ○自己有用感を高め多様性を認め合う、いじめのない学校づくりの推進			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
挨拶を通して互いの人権を尊重し、いじめ防止及び不登校対策に関する働きかけを月1回以上実施する。	2	月1回以上の取組は実施できたが、不登校児童の減少までには至らなかった。いじめの未然防止、初期対応に努めた。	C	・すすんで挨拶ができるよう更なる働きかけが必要。挨拶は家庭での働きかけも必要だと感じる。
児童調査で「挨拶をしっかりとっている」、「友達と仲良くしている」の肯定的評価を90%以上にする。	2	挨拶84.6%、友達96.0% 挨拶が目標に達しなかった。児童がすすんで挨拶できるように指導を工夫する必要がある。	C	・地域で見守りを続けたい。 ・言葉遣いが気になる。 ・責任者の対応の遅れが「心の教育」の遅れにつながっている。
児童の指導について日常的に情報共有を行い、組織対応をする。(教員調査で肯定的評価を90%以上にする。)	3	100%と教員の情報共有に対する意識の高さがうかがえる。今後も組織全体で細やかな連携を行い、組織力を発揮していく。	B	・組織全体の指導力を高める必要がある。
評価のまとめ	○児童が「挨拶の良さ」について考えるなど、すすんで挨拶ができるようになるための手立てを講じるとともに、保護者や地域の協力を得て働きかける。 ○日頃から児童の様子に目を配り、問題行動の未然防止に努め、問題が生じたときには組織で迅速に対応し、適時かつ確かな「心の教育」を行う。			

(3) 健やかな体の育成

重点目標	○オリンピック・パラリンピック教育の「二小2020レガシー」を大切に「体力向上」と「障がいやジェンダー、LGBTQ など多様性理解」の推進			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
児童調査「すすんで運動している」の肯定的評価を80%以上にする。	3	82.6%と目標を達成した。運動の楽しさを実感できる取組を継続する。	B	・相応に浸透が図れており、概ね問題なし。 ・コロナ禍後、体力の低下が懸念されたが、様々な取組により体力がついてきているように感じる。
縄跳び月間や持久走月間、放課後校庭遊び等運動習慣定着の取組を年10回以上行う。	4	放課後校庭遊びを13回企画した。(雨天中止1回)平均70名ほどの児童が参加した。	A	・私よりもLGBTQについて子どもたちが良く知っている。教育の効果だと思う。
障がいやジェンダーなど多様性に対する理解を促す取組を年3回以上実施する。	3	3回以上実施。今年度の道徳授業地区公開講座では「ジェンダー」についての講話を実施。	B	
評価のまとめ	○体を動かすことが好きな児童が増えている。体育的な活動に無理なく参加できる環境を整え、運動の楽しさを実感し、体力を高められるように指導を継続する。 ○多様性の理解、自分とは異なる価値観と出あうことなどについて、発達段階に応じて繰り返し指導を行っていく。			

(4) 家庭や地域との連携

重点目標	○人権を尊重し自己有用感を高める取組を家庭・地域と連携して行う。 ○教育活動の情報発信を工夫し、保護者や地域への理解促進を図る。		
評価項目	自己評価		学校関係者評価
	評語	現状の分析と改善策	評語 学校運営協議会委員の意見
人権を尊重し、自己有用感を育てる取組を「ひまわり」の栽培を通して行い肯定的評価を80%以上にする。	2	76%と目標には達しなかったが、価値のある活動であるため、活動内容や方法を見直す必要がある。	C ・ひまわりプロジェクトのマンネリ化、土壌改良の必要性など課題を克服し、児童主体の活動になるようにした方がよい。 ・学校 HP のブログを活用し、かなりマメに教育活動を発信していると感じている。
保護者調査で「学校が教育活動の様子を適切に提供している」の肯定的評価を90%以上にする。	4	肯定的評価が95%であった。(R5:92%) 学校 HP、各種たより、青少協の定例会議、地域行事などで発信した。	A ・様々な企画を安定的に運営していくための人材確保が急務である。
地域学校協働活動及び地域行事を年10回以上行い、地域と共にある学校づくりを目指して、地域との連携を深める。	4	地域学校協働活動を本部として放課後子ども教室を21回実施した。学校や地域でワークショップを企画実施し、好評だった。	B
評価のまとめ	○来年度に向けて「SDGs委員会」を立ち上げ、より児童主体のひまわりプロジェクトとなるように改善する。 ○学校 HP や各種便り等で通常学級及び特別支援学級の児童の様子を積極的に発信したことが良かった。 ○次々と新しい企画を試み、児童に楽しい活動を提供することができた。		

2 次年度に向けた学校経営の方向性、課題等

<p><次年度に向けた学校経営の方向性></p> <p>○2年かけて進めてきた「働き方改革」については、保護者・地域の皆様の理解を得ることができた。継続していく。</p> <p>○学習指導については、一斉指導だけでは十分に理解できない児童への対応を充実させ、誰一人取り残すことなく確かな学力を身に付けさせる。</p> <p>○「挨拶の良さ」を児童が実感し、すすんで挨拶ができる児童を増やすとともに、誰とでも気持ちよく挨拶ができる学校風土を醸成する。</p> <p>○教員間で学び合い、高め合うことで、教職員一丸となって児童の指導にあたる。担任まかせにせず、教員個人の負担を減らすことも働き方改革の1つとする。</p> <p><課題></p> <p>○行事や企画イベントなどを行う際、内容の変更がある時は学運協委員や保護者、地域に早めに知らせる。</p> <p>○「共生社会」の実現を目指し、障害、志向、特性等の有無にかかわらず、互いの人格と個性を尊重し合うことの大切さを学ぶ機会を設ける。</p>
--

以上のとおり報告いたします。

令和7年2月6日 多摩第二小学校 校長 井戸 しのぶ

公印

令和6年度 学校評価書



多摩市立多摩第二小学校